



GPS と私

平野 彰

GPS(Global Positioning System)は最近では、カーナビは勿論、携帯電話などにもつけられ、さらに徘徊癖のある人の位置確認など、広く普及しているが、私がこの存在を知ったのは、20年近く前かと記憶している。NHKの昼の番組でゲストと共にスタッフが原っぱの中にソニー製の機械を持ち込み経度、緯度を測定し、画期的なものとして紹介していた。これを山で使ったら常に自分の位置が分かり便利ではないかと思ったが、弁当箱より一回りほど大きく、価格も約50万円とかでとても使いこなせない。しかしその数年後通販のパンフレットが手に入り、価格も3~4万円とのことで、早速購入してみた。私にとっての1号機でGARMIN・GPS38で電源は単三乾電池4本である。山での最初の使用はヒマラヤのゴーキョピークの雪崩で亡くなった、某氏の追悼登山が平成8年岐阜県の小津権現山に登った時であった。各地から集った参加者から珍しそうに色々質問を受けたが、とにかく初めての使用で何を答えたらよく覚えていない。頂上での測定では標高は絶えず変化していたが、経緯度は何とか安定した数値をだしていた。その後故山本健一郎氏から地形図に経緯の補助線を引くことにより、地図上での位置の特定がしやすくなると説明を受けた。またある会合では故渡辺兵力氏から計画がしっかりしていればこのような物は不要ではないかと、また第一次南極観測のとき、これがあれば80kmも流されることもなかっただ

ろうとのコメントがあった。また平成13年2月の西吾妻山でのスキー山行では、吹雪で視界ゼロに近い中、ザックよりGPSを出し位置の確認をしようとしたが、あまりの寒さで西経38度を示したまま動かなくなってしまった。

2号機はEMPEX GPS65 EZで単三3本ながら1号機よりやや大きめ。この間アメリカが衛星から発信する電波の精度を上げたため、GPSの誤差も減り有り難い。

3号機は日本山岳会(JAC)100周年記念行事で中央分水嶺踏査の始まった時で会の幹旋で購入したGARMIN eTrex Legendである。単三2本で、掌に入る大きさだ。分水嶺踏査と共に使用を開始したが、カシミールとの連動で利用方法は飛躍的に挙がった。

猛烈な藪の中などで方向が分からなくなった時など随分と助けられた。さらにカシミールを併用することにより、山行後の記録整理などにも役に立つこと大であった。蛇足ながら分水嶺踏査中、山菜採りの一人が行方不明になり、その捜索に協力無事見つかったが、我々の持つ笛が役に立ったことも付け加え、公式報告書にも載らなかったことなのであえて、全国で唯一遭難防止に役立ったことを報告したい。

GPSは現在国土地理院との登山道情報交換などで益々活躍の場が広がるのではと期待が膨らむが、最大の欠点は谷筋や林の中などでは電波の受信感度が弱くなることであるが、国産の衛星をもっと多くして、このような欠点を少しでも減らせればと期待している。

廃(すたれ)の系譜 「 廃屋 」野倉の里から

数年前に古民家にあこがれ、なんとか手に入れようと地図を頼りにあちこち探し回ったことがあった。黒光りした太い柱組。覆いかぶさるような大きな茅葺の屋根。三和土(たたき)の土間に接した囲炉裏の間……。現代に逆行するような生活環境に何故か無性に接したくて、イメージを膨らませながら、特に信州の山あいの里を軽の四駆で走り回っていたのだった。そしてある一軒の廃れた民家が目に付いた。場所は別所温泉から山の峠を越えたところにひっそりと佇む野倉(のぐら)という里のいちばんはずれに在った。廃屋同然のその建物は腐った藁屋根に錆びた鉄板の屋根が覆いかぶさり、建具の棧はぼろぼろに朽ち、破れた障子紙がひらひらと風になびいていた。葛の蔓が家屋の中に深く進入し土埃の畳の上に根をはっており、ところどころ抜け落ちた床の上には家具の残骸や湿気で膨らんだ古い雑誌が転がっているような無残なものだった。人気(ひとけ)が消えて何年も経過しているのだろう。だが何故か不思議な魅力を感じ酔狂にも持ち主を探し当て、借用することになったのである。周囲の畑跡や山林を含めてどうにでも好きなように弄り回していいよということで、素人の古民家修復プロジェクトが始まったのであった。(小生のHP「野倉の里から」にこの経過が記されています)この経過のなかで少しずつ息を吹き返し、死んだはずの民家が蘇る様は、瀕死の人が救急救命で助かることと同義に思え、自分のかでは一生かけがえのない経験だと思っている。どんな人が住んでいたのかあれこれ想いを廻らし、この先どうなっていくのか……まさに過去と未来を繋ぐ一時一時的瞬間の醍醐味を感じさせてくれる廃屋である現代の何もかも最新技術の粋をこらした便利な生活と、蘇った廃屋での不自由な生活のギャップに身を投じて、どちらが安らぎを感じるのかを経験してみることも一興ではないだろうか (近藤善則)



行ってきました



50年近く昔のこと、就職した東京計器のボーナスは6月と12月の第一土曜日だった。この日は蒲田駅東口前の「栄月」菓子店で母と家族のためにモンブランケーキを買って帰ることが大きな楽しみであった。山形に盛り上げたマロンクリームがとろける感覚と甘いマロンの香りが脳裏に残っている。モンブランがフランスの山の名前であることを知ったのは30年も後のこと、以来モンブランは憧れの山の一つとして思い続けた。計らずも今年の夏、フランスのシャモニーからモンブランを含むヨーロッパの山々を巡るチャンスに恵まれた。

梅雨明けまでもなく、梅干の土用干し3日をぎりぎりですら7月20日13:30成田を飛び立った。

“11日間のヨーロッパアルプス登頂とハイキングの旅”

成田～オランダ経由ジュネーブ～フランス・シャモニーに2泊～アルプスモンブラン山群を越え～イタリアのクールマイヨールに1泊～イタリア最高峰グランパラディーソ(4061m)に山小屋1泊で登頂～イタリアの山岳リゾート地コーニュに2泊～イタリアのアオスタ地方を通り再びアルプスを越えて～スイスの山岳リゾート地サースフェーに3泊、ここでドーム(4545m)の近くのアラリンホルン(4027m)を登頂～チューリッヒ～オランダ経由成田

盛り沢山の計画内容と3つの山に登頂、なじみのない装備(ピッケル、アイゼン、ヘルメット、ハーネス、防寒着、山行中の行動食)でばんばんのトランクとザックを抱え、頭の中は不安と楽しみが交錯状態だ。

7/20(火)

憧れのシャモニーに着いたのは夜中、葛湯を呑んで早々に寝る。翌朝ホテルの中庭よりモンブランの白い貴婦人を思わせる山容を仰ぎ見て感激！アルプス登攀記のウインパーはモンブランの見えるシャモニーの宿で終焉を迎え、この地の墓に眠っている。登山家にとってこの上ない安らぎだろうと感じた。

(中略) - - -



コーニュからグランパラディーソ



アラリンホルンの狭い山頂

7/28日(金)

11日間の旅を終え、正午に成田に着く。このすばらしい旅の体験と感動を糧に、これからも事情の許す限り元気で山に行

きたいと思う。

思い出のモンブランケーキを母の仏前に供え、旅の無事を感謝した。 2010・11・1 記

(注：この文章はツアー後に参加が纏めた記録集から鶴田さんの文章を抜粋したものです。)

EVENT

企画展「今西錦司 三角点を巡る」

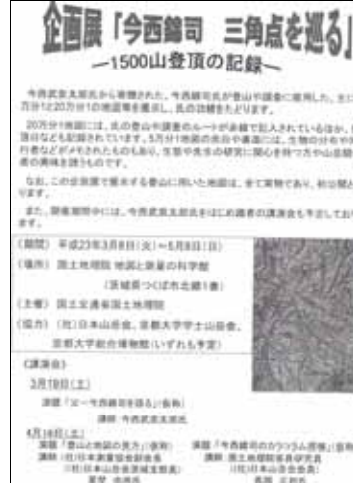
期間：3/8～5/8

場所：つくば市「地図と測量の科学館」

主催：国土地理院

協力：日本山岳会

AGCが高尾山で実施したGPSによる同時観測状況のパネル展示も行う予定です



例会の議事録

12月定例会記録

2010年12月8日(水)19:00～19:55 於JAC集会室A

出席者：13名(北野、近藤、片野、鶴田(實)、鶴田(泰)、羽鳥、高橋、森合、大西、川口、長谷川、田中、今井(順不同)) 内容：AGC 定例会開催日変更の検討について集会室の予約状況を調査したところ、2月は16日が確保でき、第3水曜日が比較的とりやすい模様で様子を見たいと考えている。当面の予定は**1月13日(木)、2月16日(水)**としたので特に注意を願いたい。(北野)

設立10周年AGCレポートの原稿提出を全員に要請しているが、集まりが大変悪い。半数以下の提出状況の場合は中止せざるを得ないと考えている。提出期限を12月末にしたので早急に提出を願いたい。(近藤) 国土地理院の企画展「今西錦司 三角点を巡る」に対するAGCの協力は地理院と関東地測、当会によって行った高尾山同時観測を主に行う。田中会員に協力をお願いする。(北野) AGC 活動の一連の読図山行は休止状態だがホワイトアウト時の対応をテーマに計画をしてみる。(北野、近藤)。終了後「鯨の家」で懇親会(13名)。 (記録：今井)

お知らせ

次回の例会

日時 **2011年1月13日(木)** 18:30から

於：山岳会 ルーム

テーマ：今後の計画、山行報告 ほか

次回は木曜日ですので、ご注意ください

AGC レポート vol-43 2011年1月1日発行

発行：日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)

〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付

TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441

編集担当：近藤 E-mail：hikarikon@nifty.com